

大学生、社会人らと語り合い

自分の将来思い巡らす

東京のNPOが授業

高校魅力化に取り組み津和野町後田の津和野高校で10日、生徒が首都圏の大学生や社会人らと対話する授業「カタリ場」があった。同校の1、2年生102人が、年齢の近い先輩の高校時代の悩みや体験談を聞き、自らの学校生活や目標について思いを巡らせた。

津和野高1、2年生



大学生や社会人と、学校生活での悩みや将来について語り合う津和野高校の生徒

同授業は、あらゆる分野で働く大人が教育に携わる社会を目指すNPO法人「カタリバ」(本部・東京都)が年間約160の高校、大学で実践するキャリア教育プログラム。津和野高校が、主体的に将来を考える機会を生徒に用意しようと、開催を同法人に依頼した。

訪れたのは、首都圏などからボランティアなどに参加した高校3年生や大学生、20、30代の社会人計16人。生徒に悩みや目標を問いつけながら、自身の経験を紙芝居にして伝え

た。

このうち、早稲田大1年の中村桃子さん(18)＝佐賀県出身＝は高校時代に打ち込んだ陸上での挫折を発表。3年の大会前に膝に大けがを負い、目標だった高校総体出場がかなわなかったことで自暴自棄になったが、自分の努力する姿を近くで見ていた後輩の言葉をきっかけに前を向いた体験を語った。

生徒は印象に残った言葉を書き留める傍ら、10年後の自分、進路、明日からできることをカードに書いて班内で宣言。1年の木村

勇太君(16)は「自分の事に置き換えると、周囲に助けられているのに気付いた。仲間や先生に積極的に相談したい」と話した。

同校は、地域の大人を巻き込んだ「つわのカタリバ」として、今後も授業を継続する考え。11日は午前10時か

ら、同校で大人向け講座「カタリバ大学」が開かれる。

あつ写ってる
掲載写真の注文は
中央フォト
(0852) 32-3393